

平成18年度 病害虫発生予察情報

発生予報第8号（9月）

平成18年9月4日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	少ない		
		紋枯病	平年並～やや少ない		
		白葉枯病	平年並		
		トビイロウンカ	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない		
		斑点米カメムシ類	多い		
		果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少ない～少ない
			ナシ	黒斑病	やや少ない
				黒星病	多い
		カキ	ハダニ類	やや多い	
炭疽病	平年並				
野菜	キャベツ	うどんこ病	平年並		
		カメムシ類	やや多い		
		黒腐病	平年並		
	アブラナ科野菜	菌核病	平年並		
		アブラムシ類	平年並		
		コナガ	やや多い		
		アオムシ	やや多い		
	ハスモンヨトウ	やや少ない～少ない			

中国地方1か月予報（9月2日～10月1日・広島地方気象台9月1日発表）
向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間は平年並みの見込みです。

A. 普通作物

1) イネ（主として普通期栽培地帯）

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①いもち病の伝染源量は少ないと推察される。

②9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

①現在の発生量は平年に比べてやや少ない。

②9月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県下常習発生地

発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在の発生量はほぼ平年並みである。
- ②9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①予察灯及び粘着誘殺灯での誘殺数はほぼ平年並みである。
- ②8月28～31日の巡回調査では、寄生虫数は4.2頭/25株（平年10.9頭/25株）、発生圃場率は58.6%（平年21.2%）で過去10年間では平成10年（207頭/25株）に次いで多い。また成虫率は94.3%で今後幼虫が増加すると考えられる。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ②8月下旬の巡回調査では、寄生虫数は8.9頭/25株（平年43.2頭）、発生圃場率は44.8%（平年83.3%）で平年に比べて少ない。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 多い

予報の根拠

- ①8月中旬の防除員調査では、カメムシ類合計で捕獲数4.8頭/10回振り（平年1.6頭）、発生圃場率88%（平年64%）で平年に比べて多い。
- ②8月末までのアカスジカスミカメの予察灯（出雲市）への累積誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ③9月の気象は本種の発生に助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

- ①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、出雲市で平年比67.4%、益田市で平年比51.5%と少ない。
- ②8月末現在の巡回調査での本種幼虫による1a当たり白変カ所数は0.3カ所（平年1.0カ所）で少ない。
- ③9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月末現在、発病葉率は21.2%（平年33.5%）で平年に比べてやや少ない。
- ②9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

① 8月末現在、発病葉率は0.68%（平年0.30%）で平年に比べて多い。

② 9月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、発生量は寄生葉率38.5%（平年24.4%）で平年に比べてやや多い。

② 9月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) 炭疽病

予報内容

発生地方 県下カキ（富有など）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 8月末現在、発生量はほぼ平年並みである。

② 9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 8月末現在、発病葉率は13.5%（平年13.5%）で平年並みである。

② 9月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）での8月下旬までのカメムシ類の誘殺数は平年並みである。

② 8月末現在、巡回調査での被害果率は10.6%（平年5.2%）とやや多い。

③ 9月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) キャベツ

(1) 黒腐病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 菌核病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 9月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 8月の黄色水盤への有翅虫の飛来量はやや少ない。

② 8月末現在、巡回調査による寄生株率は8.3%（平年9.3%）で平年並みである。

③ 9月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、巡回調査による寄生株率は16.6%（平年5.1%）で平年に比べてやや多い。

② 9月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 8月末現在、巡回調査による寄生株率は26.6%（平年7.2%）で平年に比べてやや多い。

② 9月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

① フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、出雲市で平年比67.4%、益田市で平年比51.5%と少ない。

② 8月末現在の巡回調査での寄生株率は0%（平年5.7%）で少ない。

③ 9月の気象は気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、発生にやや助長的である。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>